グラウンドワーク三島
ボランタリーニュース
No.82　2024年（令和６年１月３１日発行）

発行　特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857　静岡県三島市芝本町６－２
TEL 055(983)0136　FAX 055(973)0022
URL http://www.gwmishima.jp/
E-mail：info@gwmishima.jp

グラウンドワークとは・・・・・・・
市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
（文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。）

「水の山・自然の宝庫」富士山シンポジウム
～富士山の魅力と保全のあり方を考える～

2023年12月23日、13：30～16：30、三島市民文化会館（大会議室）で、富士山シンポジウムを開催。富士山に関して、野鳥・植生・森林・エコツアー・富士山学など、専門家がプレゼンし、富士山の保全のあり方や対策を考えた。また、現在話題になっている多様な問題についても意見交換し、日本・世界の宝物である富士山を、どのように守り・伝えていくのか、提言をまとめた。

話題提供①「水の山・富士山の価値と魅力・不思議と課題とは」渡辺豊博GW三島専務理事・元都留文科大学教授・農学博士、話題提供②「富士山・緑からのメッセージ」菅原久夫富士山自然誌研究会会長、話題提供③「自然の宝庫・富士山で見られる野鳥」滝道雄日本野鳥の会東富士副代表の後に、三木廣ＮＰＯ法人富士山エコネット代表理事も交え、パネルディスカッション「富士山の魅力と保全のあり方を考える」を開催。

17：00からは三島商工会議所１ＦのＴＭＯホールで交流会。菅原久夫さんがシンポで紹介したW.ホイットマンの詩集『草の葉　奇跡より』(1885)も話題になった。**「あらゆるものは　相関連していて　しかも　そのひとつひとつは　独自性を失わないで　おのおのそのいのちにある　W.ホイットマン」。**

▲菅原久夫さん

▲滝道雄さん

「右手にスコップ。左手に缶ビール」のＧＷ三島の定番「和やかな交流会」

能登半島地震への支援活動を開始

2024年1月1日、午後4時10分、石川県志賀町で震度7の甚大な地震が発生。津波等の被害もあり、死者・安否不明者多数。

ＧＷ三島では、1月11日、緊急役員会(リモート参加含む)を開催し、**被災児童・親子の「心のケア」を支援するため**に、東日本大震災の被災者2,400人の招待実績を踏まえ、**「子どもを元気に富士山プロジェクト」**を決定。早速、そのための募金活動を開始。

第1陣を、3月23日～25日に三島へ招待することになった。引き続き、募金へのご協力を！

感謝！緒明春雄理事より自作の色鉛筆画『源兵衛川』寄贈！

2023年11月28日、緒明春雄理事より、自作の色鉛筆画『源兵衛川』が寄贈された。緒明さんのサインの上には、制作の日付（2023.7.5）も記されている。多趣味な緒明さんは、色鉛筆画も習っているそうで、約3カ月かけての力作。源兵衛川は、ＧＷ三島の活動の象徴的な実践地でもあり、ＧＷ三島の事務所に飾らせていただいた。

ＧＷ三島は、日本水環境学会の「2023年度・日本水環境文化賞」受賞が決定

12月8日、ＧＷ三島が、日本水環境学会主催の名誉ある「2023年度・水環境文化賞」を静岡県で初めて受賞することに決定した。

対象とする文化活動は「水の都・三島の水環境を地域協働で再生する活動　①源兵衛川の環境モニタリング調査および希少種の生育環境の再生活動　②松毛川の地域環境に優しく、共存する森づくり活動　③環境出前講座や水辺自然観察会の開催を通じた次世代へ人材育成活動」。

現場主義で三島への強い愛郷心を基盤として、地道に現場で発生する具体的な課題解決に努力してきた。多様な市民パワーと知恵、行動力を結集することによって、魅力的な街を創ることができる。

この受賞を活動のさらなる糧にして、今後とも水環境の保全・活用に全力で取り組んでいく。

表彰式は3月7日に九州大学で開催される。多くの方々のご支援に深く感謝したい。

「水の山・富士山エコツアー」開催

11月3日、富士山の彩り鮮やかな紅葉を満喫しながら、山中湖・富士山の裾野に点在する、長泉町：窪の湧水、裾野市：富沢不動・景ヶ島渓谷、御殿場市：二子湧水を巡った。

それぞれの場所で参加者たちは、湧水のパックテストによる水質検査を体験した。

松毛川千年の森づくり
三島市御園地区・植林地と三島桜の里の下草刈り作業
―2023年度日本郵便年賀寄付金助成事業―

植林地は、昨年約500本の苗木を植え新たな植林帯となる所、三島桜の里は華やかな憩いの里になる所。

雑草から幼木を守り育て、維持管理作業を通して、次世代に「緑のプレゼント」として「千年の森」を確実に伝えていく活動。

10月14日　植林地の下草刈り
10月21日　植林地の下草刈り
11月　4日　植林地周辺の下草刈り
11日の作業にむけての環境整備作業
11月11日　植林地の下草刈り
青年塾、長野大学松下ゼミ生が参加

感謝！ＧＷ三島へ活動支援金寄せられる

10月18日、ＧＷ三島事務所へ活動支援金が届けられ、小松幸子理事長から感謝状を贈呈。渡辺豊博専務理事は「多様な三島磨きに使わせていただきます」と伝えた。

「松毛川・森のインストラクター養成講座」

松毛川は全国的に見ても貴重な自然環境。上・中流域には河畔林が残り、魚類約18種、鳥類約60種、12種のトンボ、252種の植物、12種の樹木が生育している。狩野川の原風景や地域の歴史的環境資源として保護・保全していくべき「ふるさとの森」「地域の緑の宝」である。

今回、各分野の専門家を講師に招き、河畔林に背利息する生き物について学ぶ講座（全10回）を開講。

★ 9月30日 開講式
★10月 7日 現地見学と環境状況の学習 講師：ＧＷ三島インストラクター（松毛川エコツアー）
★10月 14日 松毛川に集う野鳥たち 講師；滝道雄・日本野鳥の会東富士副会長
★10月21日 環境改善・再生実習　講師：ＧＷ三島インストラクター（草刈り、放置竹林の伐採、外来種除去など）
★10月28日 松毛川のトンボと水辺の価値 講師：加須屋真・常葉大学非常勤講師
★11月 4日 松毛川の森と植物たち 講師：菅原久夫・富士山自然誌研究会会長

★11月11日 環境改善・再生実習　講師：ＧＷ三島インストラクター（草刈り、放置竹林の伐採、外来種除去など）
★11月25日 松毛川に集う野鳥たち（冬鳥のバードウォッチング）講師：滝道雄
★12月 9日 松毛川に住む魚と生き物たち 講師：関川文俊・常葉大学非常勤講師
★12月16日 まとめワークショップ、修了式　講師：渡辺豊博・元都留文科大学教授・農学博士

ふるさと三島人物伝 41

創意工夫で　私は脱サラで成功　（その 2）

（株）マルヨ　お食事処「松韻」　2 社の代表取締役

伊丹（いたみ） 秀之（ひでゆき）さん【寄稿】　函南町在住

「ふるさと三島人物伝」で、（その１）（その２）と寄稿した人は、多分、私が初めてじゃないかと思います。（その１）を読んでない方は、理解できないところもあると思いますが、今日は、想い出しながら続きを寄稿します。

28 歳で始めた餃子製造卸業のライバル会社社長が、お客様全部を私に手渡して、1 週間引継ぎ応援してくれました。考えもしなかった商運が開け、東京築地市場進出、甲府市場進出、神奈川市場進出も決まりました。

多忙な日々の連続で寝不足でした。毛布を用意し、車の中での仮眠が多くなりました。前の車のテールランプが動く幽霊のように見えたこと、信号機が赤になるとハンドルに顔を乗せて短時間の仮眠、そして青色信号になると後方の車のクラクションが私を起こしてくれる目覚まし時計になったこと。勿論、私の若い頃の時代は今とは随分違っていますが、楽しかったです。

省みて人生には、何回かチャンスがあるものだと思います。一期一会と申しましょうか、合縁奇縁（あいえんきえん）と申しましょうか、有難いことでした。

（5）　静岡新聞の記事　令和４年（2022年）４月６日（水曜日）

シニア　月 園芸・料理　火 健

はりきり人生

オンリーワンの表現 挑戦

水墨画制作

伊丹　秀之さん（三島市）

51歳で始めた水墨画の作品は250点を数える。人物や風景、空想上のカッパなどモチーフは多彩で、1年おきにカレンダーも制作

水墨画を描き続ける伊丹秀之さん＝三島市

して配っている。80歳。

経営する食事処「松韻」（三島市）の客に出す年賀状のイラストとして描き始め、その後はキュウリやカボチャなどさまざまな作品を手がけるようになった。「自分もできると思うとうれしくて」。本を見ながら独学で腕を磨き、今では池の波紋を表現するなど新たな技法にも挑戦。1カ月に1点ほど、〝オンリーワン〟を目指して作品制作に没頭する。

カレンダーは正月の松、春の桜など季節感あるデザインに仕上げる。白黒、カラーなどバラエティーに富み、2年に1度の完成を多くの人が心待ちにする。「喜んでもらえるのが何より。今年も良いカレンダーを届けたい」と描き続ける。

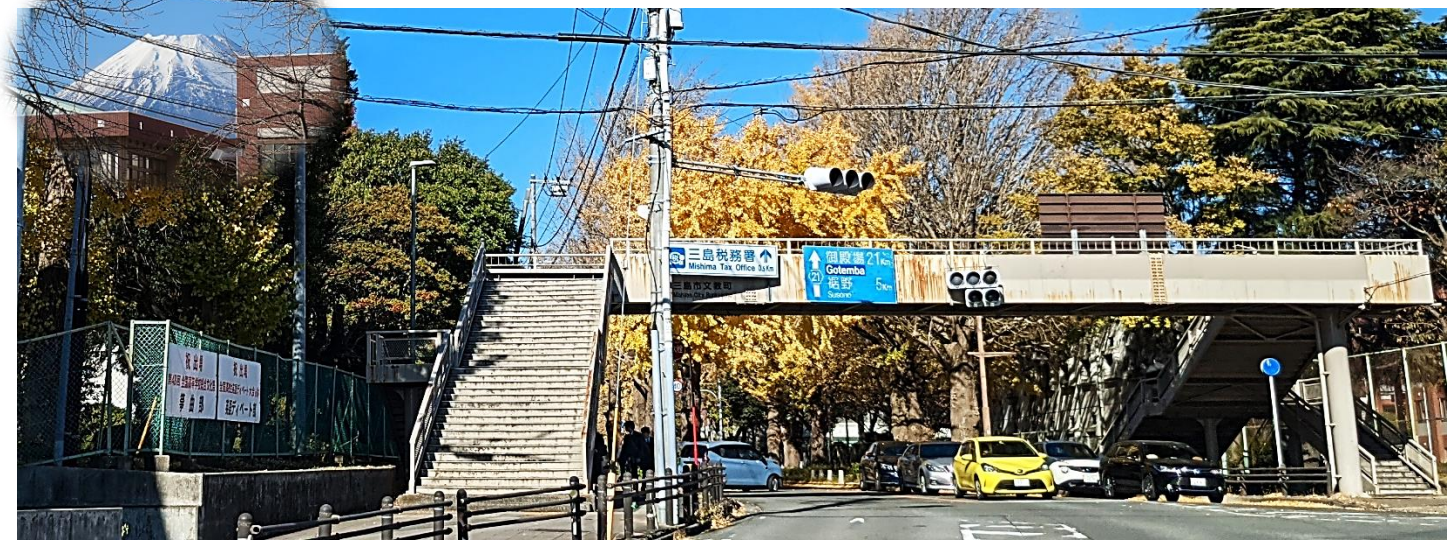
餃子製造卸業も体力勝負で見切りをつけるべき時期が来たことを感じ、冷凍食品の製造販売会社を発足させました。これも、なに 1 つ知識のない業種でした。昭和 55（1980）年のことでした。約 80 名の従業員と共に、肉だんご、オムレツ、つくね串等々、20 アイテムの製造工場でした。冷凍食品製造では注文食数ピッタリの製造は無理で、余分に作るので、冷凍庫内の在庫量はいっぱいになります。その製品の消化のために始めたのが現在の（株）マルヨですが、当初の冷凍食品会社は解散していますので、冷凍食品の使用はしていません。

▲三島市民文化会館で、歌手・布施明の前座を務めたとき

佐野美術館内にあったお食事処「瀬里」の後を引き継いでほしいという話で、平成 5（1993）年に「松韻」をオープンし、28 年が過ぎました。コロナ禍で大変苦労しましたが、従業員一同ワンチームで頑張りました。広い駐車場と世界遺産・富士山の湧き水と日本庭園。三島の良さ、三島らしさを持っている所で、私は三島を代表する宣伝者になる努力をしています。隣の「せせらぎ亭」には三島梅花藻が生育しています。三島梅花藻の素晴らしさを、意外にも当たり前のことと思っている三島住民が多いように思います。清流にしか生育しないこの三島梅花藻の手入れを、忠実（まめ）にやり通す覚悟です。

みしま 歴史旅　その45

野戦重砲連隊（やせんじゅうほうれんたい）が置かれていた三島



▲銀杏並木が有名な文教町の交差点で、北方面を撮影。さらに北へ移動すると、富士山も見えた。出兵の方々も見たであろう富士山が・・・

▲北小前

▲北中前

三島市立北小・中学校正門の横に歩哨兵の建物が残されている。それは、この辺り一帯がかつて旧陸軍連隊の跡地であったことを物語っている。今回は、三島と軍との関わりを振り返ってみた。

三島は、地理的、歴史的に重要な場所であった。江戸時代から幕府直轄の天領として、代官の支配に属していた。韮山代官・江川英龍（担庵）により、幕府の常備軍を補うための農兵隊を訓練する農兵調練場が置かれた。（現三島市役所）明治時代、政府は国民皆兵の徴兵制を制定し、三島は東京鎮台に所属した。この頃から、富国強兵を目的に領土拡大のため朝鮮半島植民地政策が進められた。三島町の戦死者は日清戦争では出陣兵の1.5%、日露戦争では約9%に及んだ。そして、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦へと政治のファシズムが進み戦争が拡大していった。

明治22（889））年の鉄道開通以降、恩恵を受けない三島は寂れ始め、町おこしとして軍隊の誘致運動が始まった。当時、世界の世論は軍縮会議へと発展し、日本も第15師団の解体へと踏み切らざるを得なかった。大正8（1919）年、野戦重砲兵第1旅団・第2連隊が横須賀から移転、三島衛戍病院（陸軍病院）が開設された。（戦後は三島国立病院となり、老朽化で取り壊された。跡地は現三島市立体育館になり、路傍には「三島陸軍病院」の碑がたっている。）翌年、和歌山から第3連隊が移転。2つの連隊には全国から2,000名余の兵隊が終戦まで駐屯していた。昭和7（1932）年、上海事変に1個大隊が出征したのを始め、終戦まで多くの兵士が両連隊から中国大陸、東南アジアに送られた。

昭和9（1934）年、新三島駅が設置され町全体が軍都として賑わった。商店、飲食店、娯楽施設の60%が軍関連の人達によって利用された。軍需品を製造する中島飛行機、電業社、明治ゴム、共立水産などの工場も進出した。

昭和20（1945）年、第二次世界大戦に敗れ、ポツダム宣言を受諾し、旧陸軍が解体されると共に三島の2連隊も解体。この地区は、平和な文教の都と大工場の町へと変わった。第2連隊には、三島市立北中学校、日本大学、日本大学三島高等学校が置かれ、第3連隊には、静岡県立三島北高等学校、三島市立北小学校、日本国有鉄道中央鉄道学園三島技術学園、静岡県立教育研究所など多くの教育施設が設けられた。その他、職業安定所、三島労働金庫、税務署、検察庁、東洋レーヨン三島工場、同社宅等々。

連隊当時植えられた銀杏並木は今でも健在で、人々に親しまれている。また、その両側にあった連隊を想起させる旧陸軍の遺物は、まだところどころに残されている。市内には、20数か所の戦争関係慰霊碑と慰霊社も祀られている。昭和34（1959）年、三島市は「非核平和都市宣言」を決議した。

参考資料：『三島市誌中巻』三島市誌編集委員会編　　『三島と戦争』三島市教育委員会編
『ふり返る20世紀ー三島100年の証言』三島市郷土資料館発行
『目でみる三島市の歴史』友野博著　　『三島郷土史論考』半田衛編著錦田郷土研究会
『郷土資料館だより』第29号　第30号
『広報みしま　戦後60年と三島　三島と軍隊』平成17年8月1日号

Smile スマイル

三島に移住して丸１年 ～さらに魅力的な街へ

（株）植本空間設計舎

【寄稿】 植本（うえもと） 俊介（しゅんすけ）さん

昨年１月に東京から三島に移住し、自分が経営する建築設計事務所も三島に移転致しました。三島に惹かれたのは、街中に湧水がある希有な環境に加え、歴史もある程度は継承されていて、街の人自らの手によって、地域資産を生かした街づくりをされている点でした。

その活動の中心にグラウンドワーク三島があることを友人の大学の先生から聞いていたので、こちらに来てすぐに入れていただきました。

もともと建築設計だけでなく、かつては街づくりにも多少は関わっていましたが、東京はとにかく巨大すぎ、人も多すぎで、住民としても専門家としてもなかなか街に関わる機会がありませんでした。人生の再スタートとして、お互いの顔が見え愛着を持てるような街に移住し、生活者として街に関わって行けたらと考えました。

体を動かしながら、知恵を出していくという考え方は大賛成です。三島と東京を往復する生活なので、時々しか参加出来ていませんが、ここ１年で松毛川や大場里山の草刈り、腰切不動尊の大祭、三島そばの種まき＆収穫、富士山麓湧水ツアー、川づくりサミットや富士山学習等に参加致しました。

そんな三島の街ですが、周辺環境が湧水を生かしきれていない面もあり、まわりも含めて魅力的な環境にしていくことが大事だと思います。また、能登半島地震で老朽化した建物の危険性が改めて問題になりましたが、街の魅力を損なうような建替えや再開発ではなく、あくまで三島の街の魅力を高めるような建物のリノベーションや建替えも進めて行くべきだと思います。

日本の地方都市は地域資源の宝庫なのに、あまり生かされていないところが多いです。三島は先駆的な事例ですが、さらに魅力的な街になるように、頭と体を動かしていければと思っています。

人と人をつなぎ、環境改善への役割大の「バイリンガル環境かるた」

グローバル文化交流協会監査

【寄稿】 水島（みずしま） 路子（みちこ）さん

私がグローバル文化交流協会に入会したのは今から30年ほど前のことです。当時英会話を習い始めようとしていた私に知人が勧めてくれたのがこの会でした。

入会してグローバル文化交流協会はただ英会話を教えるだけの団体ではなく、国際交流や地域交流など、その名の通り幅広く文化的な活動をしているのだと知りました。すでにあった「バイリンガル環境かるた」もその一つでした。これを会員が皆で作ったと聞いて驚いたのを覚えています。

身近な事柄を通して英語と日本語、両方で環境問題に触れているその内容は、30年以上経った今でも新鮮です。長年グローバル文化交流協会に所属してきて、何度もかるたを実践する機会がありました。中でも、小松幸子さんと訪れた「学童クラブ」（下写真）での小学生の熱の入った「かるた競技」は印象に残っています。やはり子供たちの真剣さの度合いは大人とは違いますね。子供たちがこのかるたを楽しみながら環境への関心を深めてくれれば嬉しい限りです。

▲学童クラブでかるた取り（コロナ禍前）

また昨年、三島エコセンターで実践した「バイリンガル環境かるた会」では、イギリスの方が感情をこめて英語を読み上げてくださり、会場は大いに盛り上がりました。改めてこのかるたの持つ国際性を感じました。

これからも、多くの場所でこのかるたが人と人をつなぎ、環境改善への役割を果たしてくれるのではないかと期待しています。

パッションNo. 48 出会いのガーデンで、話し笑って世界を広げよう！

「沢地グローバルガーデン」には様々な名称があり、海外や地域の多くの方々との出会いを思い起こす。「ドムニースクエア」は、三島の姉妹都市（ＮＺのニュープリマス）のＡＬＴのロス・ドムニー夫妻由来。「ワムホフの丘」は、函南町の姉妹都市（アメリカのカーマン）のＡＬＴのスティーブン・ワムホフさん由来。英国ＧＷの重鎮のロビン・ヘンショウ夫妻に因んだ「バーミンガムの丘」もある。ネパールの青少年が植えた国花・シャクナゲ、ベトナム青年が植えたローズマリー、山形県の視察者が植えたツツジ、スイス人が植えたスイセンの斜面を整備した「早稲田大学のゼミ生」のコーナーなどもある。

最近の作業日には、ベトナムやタイの青年とも交流。休憩時間にベトナム青年が参加者を見回して、にこにこしながら「高齢者ばかりですね」と言ったので、皆、顔を見合わせて「確かに」と大爆笑。聞けば、彼は24歳。

三島市役所経由で静岡県グリーンバンクから配布していただいている球根や種子を植栽するなど、作業を続けている。今年はヘンショウ夫妻のクレマチスも整備したい。ご参加、大歓迎。　「沢地グローバルガーデン花の会」

ＧＷ三島の活動記録 2023年10月1日－2024年1月31日

東	日	曜	事　業　名	内　容	場　所	人数
10	7	土	松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	松毛川エコツアー	松毛川	9
	14	土	松毛川千年の森づくり	三島桜の里・植林地の下草刈り	松毛川	6
			松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	松毛川に集う野鳥たち	ＧＷ三島事務局	8
	21	土	松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	環境改善・再生実習	ＧＷ三島事務局	7
	26	木	～27 三島市立北中学校職業体験	職場体験	各実践地	2
	28	土	「ゆめみしま」収穫祭	稲刈り体験	三島市梅名地区水田	13
			松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	松毛川のトンボと水辺の価値	ＧＷ三島事務局	8
11	4	土	松毛川千年の森づくり	植林地の下草刈り	松毛川	5
			松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	松毛川の森と植物たち	ＧＷ三島事務局	8
	11	土	松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	環境改善・再生実習	松毛川	25
	16	木	～17 三島市立中郷西中学校職場体験	職場体験	各実践地	2
	21	火	～22 三島市立南中学校職場体験	職場体験	各実践地	2
	24	金	源兵衛川環境再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	草刈り、堆積土砂の浚渫	源兵衛川	6
	25	土	三島そば種まき体験	そばの収穫	元山中地区ほ場	12
			松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	冬鳥のバードウォッチング	松毛川	10
12	6	水	源兵衛川カワニナお引越し大作戦	カワニナの採捕・放流	源兵衛川	7
	9	土	松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	松毛川に住む魚と生き物たち	ＧＷ三島事務局	9
	16	土	松毛川・森のｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ養成講座	まとめワークショップ・修了式	ＧＷ三島事務局	7
			源兵衛川環境再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	外来植物等の草刈り、ゴミ拾い	源兵衛川	8
	20	水	源兵衛川環境再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	外来植物の除去とゴミ拾い	源兵衛川	8
	23	土	三島そば打ち教室	そば打ち体験	三島市民生涯学習センター	12
	23	土	関係者交流会	交流会	三島商工会議所ＴＭＯホール	15
	25	月	三島梅花藻の里竹垣ﾘﾆｭｰｱﾙﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝ	竹材の切り出し・加工	松毛川	5
	27	水	三島梅花藻の里竹垣ﾘﾆｭｰｱﾙﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝ	竹垣の設置作業	三島梅花藻の里・緑と水の杜	7
1	13	土	松毛川千年の森づくり	竹くずの片付け、草刈り	松毛川	6
	26	金	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り	松毛川	4
	27	土	腰切不動尊例祭	御堂の清掃・読経	腰切不動尊	7

〈現場で学ぶＳＤＧｓ体験塾〉11/3 21名、11/18 10名、12/2 10名、12/23 30名
〈定例作業〉★三島梅花藻の里18回　★源兵衛川4回　★鏡池ミニ公園4回　★桜川4回
★境川・清住緑地愛護会4回　★雷井戸4回　★沢地グローバルガーデン4回
〈定例会議〉★編集会議8回
〈募金活動〉★東日本大震災、ネパール地震、熊本地震、大阪北部地震、松毛川の森を守る募金
西日本豪雨災害支援募金、能登半島地震・随時
〈署名活動〉★三島駅南口「水の都・三島」を財政破綻と魅力破壊から守る署名活動　随時

視察来訪者記録 R5.10.1～R6.1.31

月	日	視察団体	数	地域
10	13	㈱ピーエスインターナショナル	2	東京
	24	家具の大正堂	14	東京
	28	さむかわエコネット	42	神奈川
11	8	台湾水利署	7	台湾
	11	青年塾	10	東京
		～12 長野大学	6	長野
12	2	立教大学	5	東京

ＧＷ三島事務局の新スタッフ

太田（おおた） 広之（ひろゆき）さん
三島市在住

昨年 10 月からＧＷ三島事務局でアルバイトをしている早稲田大学修士２年の太田広之です。香港とのハーフで、出身は香港です。

大学では土木の景観・デザインと言う分野で勉強をしていて、昨年７月に研究室で三島に視察に来て以来、渡辺事務局長と学会で再会したり、ご縁があって、現在は三島に住みながら活動に参加をしています。三島で数ヶ月過ごし、まだ活動についていくので精一杯ですが、三島のことを知っていくにつれて、グラウンドワーク三島の偉大さを実感しています。

修士論文も三島市を題材に書き進めているので、これからも良い研究ができるように頑張ります。

「三島そば」今年度も大人気

箱根西麓の農地を活用した「三島そば」づくりは、20年目を迎えた。川原ヶ谷（元山中）地区の遊休農地約300ンバーと種まきを行った。天候にも恵まれ順調に生育し、富士山と駿河湾の壮大な景観を背景に咲き香る白いそばの花は、10月中旬から下旬まで楽しませてくれた。

11月25日、ボランティアの方々の参加も得て収穫体験が行われた。12月23日には、収穫された新粉を使っての「そば打ち教室」を開催。年末の「年越し三島そば」の販売も好評だった。

2023年度産・三島産新銘柄米「ゆめみしま」 稲刈り体験・収穫祭・販売

10月28日、三島市梅名地区内ほ場で、一昨年より本格的な栽培がスタートした「ゆめみしま」を通じて、三島のお米の魅力、農業の楽しさや苦労を身近に感じられる稲刈り体験と収穫祭が行われた。「ゆめみしま」の特徴は、ツヤと張りのある大粒。口の中で一粒一粒の確かな食感を味わうことができ、豊富な甘みが広がる。

新米は、11月初旬からＧＷ三島事務所で販売されている。価格は、1キロ650円、2キロ1,200円、5キロ2,800円（税込み）で、精米・玄米両方の注文ができる。

感謝！柴田英雄さんが テーブルと椅子をご提供

12 月 1 日、柴田英雄さんから、机と椅子が提供された。搬入後、急に今までのＧＷ三島の事務所が豪華な会議室の雰囲気に変身した。椅子もゆったりと座れるので、心落ち着けて、今後の本会の戦略的・創造的・挑戦的なアイデアが発意されてくると思う。

誰かが外から見て、評価してくれている事実は、活動の強い原動力になる。柴田さんの多様なご支援に感謝するばかり。

インターンシップ体験 三島市立南中学校　２年生　２名

11 月 21 日と 22 日、三島市立南中学校の 2 年生 2 名が、ＧＷ三島にインターンシップのため来訪。初日は三島梅花藻の里での清掃作業、松毛川植林地での下草刈り作業。山口東司ＧＷ三島インストラクターによる源兵衛川・雷井戸などの本会の実践地の視察、渡辺豊博専務理事による本会の説明。

翌日は梅名地区の田んぼで、はざかけ稲の脱穀作業、事務所に戻ってのゆめみしまの袋詰め作業と多様な作業体験が続いた。

渡辺専務理事は、ＮＰＯ・市民団体は、地域の中で課題解決のために具体的に行動・活動することが社会的な使命・目的であることを説明。地域の問題を他人事にしてしまうと、街は自分から離れてしまい無関心になってしまう。今回の実体験を通して確認した目立たないところで淡々と頑張っている人々がいることを、いつも認識して日々の生活を過ごしてほしいと伝えた。

三島梅花藻の里・竹垣をリニューアル

ＧＷ三島は、三島梅花藻の里の定例整備を 28 年間続けている。ここは、1 年を通して「清流のバロメーター」といわれるミシマバイカモの花を楽しめる憩いの場で、三島市民や観光客が訪れる観光スポット。

三島梅花藻の里の池側の竹垣が老朽化し、リニューアル。12 月 25 日、松毛川河畔の竹林を伐採し、竹垣用に加工。27 日に付け替え作業を行った。

定例作業は毎週木曜日、午前 10 時より行っている。水辺公園の整備へのご参加、大歓迎。

「境川における リバーフレンドシップ」を締結

11 月 10 日、「一級河川境川におけるリバーフレンドシップ制度に関する同意書」を、グラウンドワーク三島理事長・三島市長・静岡県沼津土木事務所長との間で締結した。

この境川は、本会の提案を受けて環境に配慮したミチゲーション工法（貴重な植生を保護・保育し施工後に河川断面に移植）により施工されたもの。

本会の活動範囲を中心として、今後も的確に境川の維持管理と環境保全の役割を担っていく。「公共財」は市民の財産。主権者としての市民の責務を無理の無い範囲で果たしてく。

▲ミチゲーション工法で植生の再移植をしているところ

「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.13」「ハロウィン・パレード in みしま」

毎年 10 月下旬の日曜日に小学生以下の子どもを対象に行われるイベントで、2009 年から毎年開催されている。三島大通り商店街の歩行者天国は、三島市や近隣の市町から魔女や人気のキャラクターなどに仮装した親子らが集い、ハロウィン一色に染まる。(コロナ禍により 2020、2021 年は中止)

参加者がマップをもとに協力商店を回り、合言葉でお菓子をもらう「トリック・オア・トリート」、フォトコンテスト、三石神社前から大社町西交差点までのパレードなど、参加者と見物客が楽しめる企画が満載。

中央町の英会話スクールとみしまプラザホテルが共同開催したハロウィンパレードが先駆けとなり、2012 年以降、中央町商店街、三島大通り商店街が主体となっている。今では 2,000 人を超える子どもが参加し、子どもだけの参加者数では有数の規模であり、三島の名物イベントとして全国的に知れ渡る日も遠くないだろう。

三島市内の写真集

撮 影 者：やまぼうし
撮影場所：三嶋大社（舞殿）
撮影日時：2024/1/7 13:40

ひとこと：１月７日の新春恒例「御田打神事」。年の始めに五穀豊穣を祈り農作業の所作が演じられるとの事。牛役の男の子の「もぉ～」の声に集った人から拍手や笑いが上がっていた。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Ｅメールに添付し、ＧＷ三島事務局まで。
Ｅメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして大切に使わせていただきます。

＊東日本大震災支援募金
＊ネパール地震支援募金
＊熊本地震支援募金
＊大阪北部地震支援募金
＊松毛川の森を守る募金
＊西日本豪雨災害支援募金
＊能登半島地震支援募金

台湾から実践地視察と聞き取り調査

11 月 8 日、台湾経済部水利署の職員 8 名が来訪。午前はＧＷ三島の現地視察を小松幸子理事長が案内し、午後は渡辺豊博専務理事への聞き取り調査が行われた。

現地案内では、源兵衛川や雷井戸、三島梅花藻の里など、せせらぎの街の魅力を実感・体験していただいた。源兵衛川では、11 月にもかかわらず暖かな日だったこともあり、川に入りたいという要望に応えて時間をとり、一同大満足の様子だった。

聞き取り調査では、都市と農村を結ぶ水の道・源兵衛川の設計コンセプトや地域住民の合意形成、環境に配慮した構造物設計のポイント、物をつくるだけではなくその波及効果を事前予測したまちづくりの手法、役所の縦割りの打破、専門家を交えた創意工夫、現場重視と市民目線が物づくりの原点、多様な課題調整を担う役割、酒宴による本音の意思疎通の大切さなどを伝え、台湾の先進事例も聞いた。夜は「魚がし鮨三嶋大社通り店」で交流会。日本語、中国語、英語が飛び交い、大いに盛り上がった。今後の交流の発展が期待される。

解体される「旧久保町簡易水道施設」三島市と業者との協議・立会い

1 月 18 日、解体される「旧久保町簡易水道施設」に関わり、三島市と業者との協議・立会いを行い、ここにある 3 本の貴重な井戸の保護・保全を強く訴えた。今後、この井戸水を冬季の地下水の補給水として活用していきたいと考えている。

次に、桜川の堆積土の浚渫工事に関わり、三島市との立会いにおいて、川底にあるミシマバイカモや水草類の保護・保全を要望した。昨年も、川底の浚渫を再考してほしいとお願いしたが、また同じことの繰り返し。ＧＷ三島が環境保全に配慮して責任を持って対応するとお願いしても残念ながら市の対応は同じ。

腰切不動尊の例祭を開催

1 月 27 日、腰切不動尊の例祭が開催された。本会がこの貴重な歴史的・文化的遺産の保護・保全に注目して再生に取り組んだのが、1999 年 8 月。まず、腰切井戸を蘇らせ、40 年ぶりに腰切不動尊を開帳し、祠を補修し、祠の屋根を銅版瓦葺きに取替え、大祭(5 月 28 日)・例祭(9 月 28 日、1 月 28 日)を復活させ、25 年が経過した。

当初からの関係者は、年齢を重ねはしたが元気。不動尊のご利益・信仰心のお陰か。今後も、「水の都・三島」に残る貴重な宝物を保全・継承していく。

グラウンドワーク三島編集室

浅井 一哉　河田 惠美子
岸野 和子　城所 徂帝
小松 幸子　佐々木 覚
相馬 幸永子　前田 充子
山﨑 多紀子　山田 勝造
（五十音順）

ＧＷ三島事務局担当：美和 将弘